

第2次氷川町総合振興計画 前期基本計画 振り返り

産業の未来：魅力あふれる仕事があり、新たなことに挑戦できるまち

	1. 地域ぐるみで進める農漁業の振興	2. 暮らしを豊かにする拠点を中心とした商工業の振興	3. 体験と学習をテーマとした観光・交流の促進とツーリズムの推進	4. 地場産業と連携して暮らしを豊かにする新たな産業の創造																																																
	農業振興課、農地課、地域振興課	地域振興課	地域振興課、農業振興課、生涯学習課	農業振興課																																																
成果のあがったこと	<ul style="list-style-type: none"> 【法人化による農地集約】集落営農法人等による農地の集約が進んだ。 【機械化による経営の安定】農業用機械の導入が進み、規模拡大や販売額の増加など農業経営、農業基盤の安定化に繋がった。 【リスクへの対応】不測の収入減少に対応した収入保険への加入が進んだ。 【獣被害の減少】獣被害は、捕獲や防護柵の設置により減少傾向。 【水産資源の改善】事業実施の効果により水産資源、漁場環境の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 【地域経済の循環】プレミアム付き商品券の販売が100%を達成。 【新規創業】町内での新規創業した店舗が8件。 【活発なまちづくり活動】地区内での外国人研修生との交流を目的に、1地区がテーマ型まちづくり活動支援補助金制度を活用。 	<ul style="list-style-type: none"> 【事業推進体制の構築】ひかわツーリズムクラブについては法人化。 【水産資源の改善】アサリ等の水産資源の増大等、海域の環境改善。 【地域の歴史学習の充実】古墳に関する学習会や町内の子ども達との古墳巡り等を実施。 【観光インフラの充実】古墳等の観光資源に関する案内板や解説サイン等も整備。 【観光拠点の適切な管理運営】立神峡公園は指定管理者により適正に管理、独自によるイベントを開催。 	<ul style="list-style-type: none"> 【インターネットの活用】売上げ増加に向け、ECサイトの活用が進んだ。 【商品開発環境の充実】HACCPの導入により晩白柚もなかや晩白柚ジュレ等の新商品の製造が可能になった。 【新規産業の支援】新規作物の導入に関する実証展示圃の設置を支援。 																																																
	<p>農地集積率【%】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52</td> <td>68</td> <td>87</td> <td>88</td> <td>79</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	52	68	87	88	79	80	<p>創業支援事業実施件数【件】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	0	1	2	2	4	5	<p>ひかわツーリズム事業への町外参加者数【人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>550</td> <td>600</td> <td>670</td> <td>148</td> <td>64</td> <td>800</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	550	600	670	148	64	800	<p>新商品開発件数【件】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	0	3	2	0	1	1
	H29	H30	R1	R2	R3	目標																																														
	52	68	87	88	79	80																																														
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
0	1	2	2	4	5																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
550	600	670	148	64	800																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
0	3	2	0	1	1																																															
<p>鳥獣被害金額【百万円】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>23.4</td> <td>22.4</td> <td>22.8</td> <td>22.2</td> <td>21.1</td> <td>13.5</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	23.4	22.4	22.8	22.2	21.1	13.5	<p>氷川町プレミアム付き商品券使用率【%】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99.78</td> <td>99.67</td> <td>99.76</td> <td>99.85</td> <td>99.66</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	99.78	99.67	99.76	99.85	99.66	100.0	<p>梨マラソン大会参加者数【人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,870</td> <td>1,842</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>中止</td> <td>1,800</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	1,870	1,842	中止	中止	中止	1,800	<p>実証展示圃数【件】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	1	1	1	1	0	1	
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
23.4	22.4	22.8	22.2	21.1	13.5																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
99.78	99.67	99.76	99.85	99.66	100.0																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
1,870	1,842	中止	中止	中止	1,800																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
1	1	1	1	0	1																																															
課題が顕著なこと	<ul style="list-style-type: none"> 【法人の高齢化】集落営農法人組織の高齢化による労働力不足。 【加入者の減少】エコファーマー加入者数が減少傾向。 【小規模農業者への未対応】環境保全型農業における小規模農業者の取組が進んでいない。 【耕作放棄地の拡大】耕作放棄地を解消してまで耕作する農業者は減少。 【事業活用の減少】担い手不足による離農や経営規模の縮小等により農業経営改善計画の再認定は減少傾向。 【鳥被害の増加】平坦地のカモ類による露地野菜の食害被害の増加。 【生産者の減少】い草生産者の戸数、栽培面積ともに減少傾向。 【コロナによる取組中止】新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、販路拡大に関する取組が未実施。 【新たな漁業被害】内水面において、カワウの漁業被害など新たな課題が出現。 	<ul style="list-style-type: none"> 【コロナによる事業中止】新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、ツーリズム事業の多くが未実施。 【コロナ禍からの回復】低迷した消費を増加させるために、感染対策を講じながら各種事業を継続していく必要がある。 【実績を活用した周知】テーマ型まちづくり活動支援補助金制度について、1件実績ができたため、今後の制度周知の際には事例として紹介するなどして、制度自体の認知と理解を図る。 【コロナ禍での取組み推進】異業種交流・研修・研究活動支援事業について、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらどのような事業ができるのか検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【コロナによる事業中止】新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、イベントは中止または規模縮小。 【新組織との連携強化】新しくなったツーリズムクラブと連携を取りながら企画を考え、人口増加へとつなげていくことが必要。 【コロナ禍での取組み推進】新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら実施可能な事業を検討していく。 【人材育成】歴史や古墳等についての専門的知識をもった人材の育成等が必要である。 【新たな事業展開】自然災害の影響を受けやすい水産資源の維持、確保が課題である。今後、ブルーツーリズムなど新たな事業展開に向け、漁協と協議していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【出荷者の高齢化】出荷協議会会員の高齢化に伴い、直売所の品薄。JAと連携や近隣物産館との連携を強化し、課題解決に向け取り組みを実施する必要がある。 【新規導入機能の積極的活用】ECサイトの積極的な活用など安定した取引先の確保、販路拡大が必要。 【取引先の確保】新商品の安定した取引先の確保が課題。 【積極的な法人化】集落営農法人へ積極的に推進していく必要がある。 【関係機関との連携強化】導入作物について、アグリビジネス研究所など関係機関と連携していく必要がある。 																																																
	<p>エコファーマー加入人数（延べ人数）【人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>291</td> <td>317</td> <td>269</td> <td>137</td> <td>114</td> <td>400</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	291	317	269	137	114	400	<p>若手後継者育成セミナーの受講者数【人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>46</td> <td>67</td> <td>53</td> <td>27</td> <td>70</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	46	67	53	27	70	60	<p>ツーリズム事業交流人口の増加（参加者数）【人】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>800</td> <td>870</td> <td>630</td> <td>488</td> <td>292</td> <td>1,200</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	800	870	630	488	292	1,200	<p>物産館販売高【百万円】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>533</td> <td>518</td> <td>483</td> <td>476</td> <td>478</td> <td>549</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	533	518	483	476	478	549
	H29	H30	R1	R2	R3	目標																																														
291	317	269	137	114	400																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
46	67	53	27	70	60																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
800	870	630	488	292	1,200																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
533	518	483	476	478	549																																															
<p>遊休農地面積（耕作放棄地含む）【ha】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>104</td> <td>109</td> <td>111</td> <td>106</td> <td>101</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	104	109	111	106	101	50	<p>異業種交流事業の形成件数【回】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	—	0	0	0	0	1	<p>ひかわツーリズム事業の実施【回】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	—	25	26	12	9	30	<p>加工センター販売高【百万円】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17.3</td> <td>16.8</td> <td>16.2</td> <td>12.8</td> <td>15.4</td> <td>17.8</td> </tr> </tbody> </table>	H29	H30	R1	R2	R3	目標	17.3	16.8	16.2	12.8	15.4	17.8	
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
104	109	111	106	101	50																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
—	0	0	0	0	1																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
—	25	26	12	9	30																																															
H29	H30	R1	R2	R3	目標																																															
17.3	16.8	16.2	12.8	15.4	17.8																																															

《施策の体系ごとの成果と課題》（赤文字：担当課、オレンジ文字：成果、青文字：課題）

方向性	施策の体系	担当課	成果	課題
1. 地域ぐるみで進める農漁業の振興	①地域の特性に応じた組織型農業の振興 組織化による農地集積及び施設・設備の近代化を推進します。	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 集落営農法人等による農地の集約が進んだ。一方で組織において高齢化による労働力不足などの課題が見られる。課題解決に向け、組織の経営力強化に向けた支援が必要。 ● 国、県の補助金を活用し、労働力不足による農作業の省力化を目的としたトラクターなど土地利用型の農業機械の導入が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 集落営農法人組織において、高齢化による労働力不足など様々な課題が見られるなか、経営力の強化を図るため、水田の高度利用による収益向上、低コスト化に向けた取組みへの支援が必要。 ● また、将来的には、統合を含めた広域的な組織の再編を進める必要がある。 ● 集落営農法人における労働力不足といった課題解決に向け、農作業の省力化は必要不可欠な取り組みである。国県の補助事業を活用し、機械の導入などの支援が必要。
		農地課	<ul style="list-style-type: none"> ● 申請に対しては、遅延なく処理されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農地の流動化・集約化の推進事業については、法令どおりの業務であり、特に課題はない。 ● 農地法に対する無届けの案件が無いように申請者（町民・事業者）に広報誌やホームページで情報を発信する必要がある。
	②豊かな営農環境の保全及び農業関連施設の近代化 営農条件の向上を目指した基盤整備や土づくりを進めるとともに、豊かな農業生産の環境づくりとしての田園・里山景観の保全・育成を推進します。	農地課	<ul style="list-style-type: none"> ● 土地改良事業（国・県）は積極的な協力をを行い、地元調整を実施して国の補正予算による事業費増額で、少しずつ遅れを調整出来ている。今後も協力を継続し、事業の促進を図る。 ● 新規採択事業は事業主体との連携が図られており、採択に向け取組んでいる。 ● 和鹿島地区海岸保全事業は、平成30年度で事業が完了しており、令和3年度より、和鹿島海岸堤防等老朽化対策事業として長寿命化計画に基づく老朽化調査・設計が行われ、令和4年度は対策工事としてひび割れ箇所の被覆補修工事が実施される計画である。 ● 土地改良施設維持管理事業は定期的な点検を実施している。 ● 団体営農業農村整備事業は依然としてニーズが高くなっており、令和3年度は高塚用水路施設整備工事1件が完了した。継続して令和4年度ゲート工事を計画している。また、農業排水路整備事業の事業実施に向けた受益者説明会を実施し、要望を取りまとめ県へ採択申請を進めた。 ● 農道水路等維持事業は、要望により修繕業務が実施出来ている。 ● また、突発的な幹線排水路の崩壊についても緊急応急工事を実施した後、本復旧工事を発注している。 ● 耕作放棄地について、解消してまで耕作しようとする農業経営者は減少傾向にある。町独自の荒廃農地等利活用促進交付金は近年申請が無い状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 土地改良事業（国・県）は、今後も積極的な協力を継続し、事業を促進していく。 ● 新規事業についても、事業主体との連携を密にして、事業採択後の事業実施が順調に推移するように地元調整が必要である。 ● 和鹿島海岸等老朽化対策事業は、事業実施主体の県との連携を密にして事業を促進する。 ● 土地改良施設維持管理業務は、現状の把握に努めると共に耐用年数等による劣化状況を見極めた施設更新等の計画策定が課題である。 ● 団体営農業農村整備事業は依然としてニーズが高く、行政以外にできない事業である。整備については、要望に基づき緊急性等を考慮し、計画的に実施する必要がある。なお、公共工事費用の高騰により効率性は低くなっている。 ● 農道水路等維持事業は、定期的な施設の点検と地区要望により、緊急性等を考慮して、修繕対応をする必要がある。 ● 耕作放棄地について、解消してまで耕作をされる農業者は減少してきている。離農等による耕作放棄地や遊休農地の増加を防ぐため、定期的な農地パトロールの実施や広報誌等もより町補助事業の周知を図る。また、平坦地の遊休農地を減少させるため、農地バンク活用を推進する必要がある。
	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 産地パワーアップ事業や強い農業づくり総合支援事業により、農業用機械の導入が進み、規模拡大や販売額の増加など農業経営、農業基盤の安定化に繋がった。また、攻めの園芸生産対策事業の活用により、台風など災害に強い産地づくりはもとより、生産者の経営の安定が図られた。 ● エコファーマー加入者数が減少傾向にあるが、県との連携、生産部会における組織的な取組みを推進した。また、国の重点施策であるみどりの食料システム戦略における補助事業の活用など国、県、JAとも連携し、グリーン農業等を推進していく必要がある。 ● 補助事業の取組主体等と情報共有を図りながら、成果目標の進捗管理などフォローアップを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業用機械や農業用施設を整備する補助事業は、事業の採択基準が高くなっている。 ● 環境保全型農業については、一定の取り組みはあるものの、小規模農業者の取り組みが進んでいない。規模縮小や離農などの理由により更新されない。今後は、環境保全型農業の普及促進には、国の重点施策であるみどりの食料システム戦略における補助事業の活用など検討する必要がある。 ● 補助事業の取組主体等と情報共有を図りながら、成果目標の進捗管理など継続的にフォローアップを行う必要がある。 	
	③農業経営の安定化の推進 農業経営面での強化・安定化を図るための支援を総合的に進めます。	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 収入安定化事業について、不測の収入減少に対応した収入保険への加入が進み、農業者の経営安定が図られた。 ● 鳥獣対策では、山間部におけるイノシシなどの獣被害は、捕獲や防護柵の設置により減少傾向となった。 ● 平坦地のカモ類による露地野菜の食害被害が深刻な課題となっているが、県、 	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来の農業共済事業は、自然災害に対応した共済制度であるため、農業者の収入安定の観点からも、不測の収入減少に対応した収入保険への加入促進が必要。 ● 鳥獣被害対策では、山間部でのイノシシなどの獣による被害は、捕獲事業や防護柵の設置など減少傾向にあるが、平坦地のカモ類による露地野菜等への被害

方向性	施策の体系	担当課	成果	課題
			<p>JA など八代地域の関係機関で組織する協議会を中心に広域的な取組みが実施でき、八代地域全体での対策が図られている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● い草生産者の現状は、戸数、栽培面積ともに減少傾向にあることから、い草産地の維持、い草生産者の経営安定を目的に、移植機などい草専用機械の導入や修繕費用への支援を行った。 ● 経営改善、担い手育成では、肥後銀行との包括連携協定に基づく事業として、担い手塾を開催し、経営を意識した研修会等を開催した。 <p>◎ 生産組織団体育成事業における最終目標（R9）値を変更したい。 →現在の生産組織団体数が減少しているため、目標値 13 から 12 へ変更したい。</p>	<p>は深刻である。関係機関との連携により、八代地域全体の継続した対策が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● い草生産者の現状は、戸数、栽培面積ともに減少傾向にあることから、い草産地の維持のためには、い草生産者の安定経営が必須であるため、継続した支援が必要。
	<p>④農地を守り農業を支える人材の育成</p> <p>農地を守り農業を支える人材の育成を図るとともに、住民参加による農地保全活動を推進します。</p>	<p>農業振興課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規就農、就農相談については、随時行っているが、必要に応じ、JA などの関係機関と連携し適切な助言、指導を行っている。 ● 次世代投資事業では、サポート体制を整備し、経営、技術、資金、農地の分野から適切な助言、指導を行っている。 ● 農業経営改善計画の再認定は、町の基本方針に基づいた認定になるが、個別の状況把握に努め、関係機関と連携を図り、改善に向けた適切なフォローアップができています。 <p>◎ 青年農業者クラブ育成支援事業における最終目標（R9）値を変更したい。 →現在、青年農業者クラブは、1 クラブであるため、目標値 2 から 1 へ変更したい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規就農、就農相談については、経営安定につながる支援が必要。 ● 次世代投資事業では、サポート体制を整備し、経営、技術、資金、農地の分野から適切な助言、指導を行う必要がある。 ● 農業経営改善計画の再認定については、担い手不足による離農や経営規模の縮小等により減少傾向にある。町の基本方針に基づいた認定になるが、個別の状況把握に努め、関係機関と連携を図り、改善に向けた適切なフォローアップが必要である。
		農地課	<ul style="list-style-type: none"> ● 多面的機能支払交付金事業は土地改良区や広域協定と連携して、事業が実施出来ており、今後も連携を密にして事業を促進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多面的機能支払交付金事業は令和 4 年度より新たな 5 ヶ年計画の実施になっており、土地改良区や広域協定との連携を継続し事業を実施していく。また、事業未実施の地区において要望があれば、事業内容を説明して取り組みに繋げて行く必要がある。
	<p>⑤住民参加による地産地消及び都市部や国内外での販路拡大の推進</p> <p>地域ぐるみで地産地消を進めるとともに、国内の都市部や海外への積極的な販路拡大の取り組みを推進します。</p>	<p>農業振興課</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消の推進については、直売所での地域農産物の取扱は、概ね 8 割程度で推移している。また、地域おこし協力隊事業により、域内農産物を使用した料理教室の開催や SNS による域内農産物を使用した料理の紹介など広く情報を発信することで、地産地消の推進につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 直売所での地域農産物の取扱いについては、引続き現状把握に努める必要がある。また、SNS を活用した域内農産物の PR や域内農産物を使用した料理の紹介など引き続き情報発信していくとともに、食育の観点からも関係機関が連携した施策の展開も必要。
		地域振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売戦略等助成事業：新型コロナウイルス感染症拡大のため利用団体がなかった。 ● 物産展の開催による PR・交流促進：新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 販売戦略等助成事業：広報紙を使い、各種団体等に広く周知を図る。 ● 物産展の開催による PR・交流促進：観光物産協会や商工会、道の駅、氷川物産振興協議会等と連携し、物産展を開催できる仕組みを作る。
	<p>⑥環境特性に応じた漁業振興の推進</p> <p>八代海の資源の保全・育成を進めつつ、特徴のある漁業の振興を図ります。</p>	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の実施により、水産資源、漁場環境の改善がみられ効果も見えつつある。両漁協との今後の事業展開に関する検討を進める。 ● 台風などの自然災害に対応した漁船の繋留場所の整備については、具体的な場所、内容等を漁協と確認した。今後、実現に向けた県との協議を進める。 ● 浚渫が必要な航路の確認が必要であり、漁協との協議、検討が必要であるが、浚渫費用も膨大になるため、国・県への要望活動を実施しているが、継続して実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業の実施により、水産資源、漁場環境の改善がみられ効果も見えつつある。内水面において、カワウの漁業被害など新たな課題もあるが、両漁協において新たな事業展開を検討していく必要がある。 ● 台風などの自然災害に対応した漁船の繋留場所の整備については、具体的な場所、内容等を漁協と確認した。今後、実現に向けた県との協議を進める。 ● 浅海化した漁船の繋留場所や航路の浚渫について、必要な具体の航路の確認が必要であり、漁協との協議、検討が必要である。浚渫費用も膨大になるため、国・県への要望活動を実施しているが、継続して実施していく必要。
2.暮らしを豊かにする	①地域に密着して暮らしを支える商工業活動の推進	地域振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 商工業活動は、新型コロナウイルス感染症で活動が制限される中で、対策を講じながら事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症が拡大するなかで、低迷した消費を増加させるために、感染対策を講じながら各種事業を継続していく必要がある。

方向性	施策の体系	担当課	成果	課題
拠点を中心とした商工業の振興	<p>個店の魅力向上のための研修機会の充実とサービス機能強化の取り組みを進めます。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ● 結果、商工会のプレミアム付き商品券の販売が100%を達成したり、町内での新規創業した店舗が8件あり支援策が効果的に活用された。 	
	<p>②農業・物産加工業・製造業・建設業などの産業が連携した、モノづくりを主眼とする商業活動の推進</p> <p>地場の1次、2次産業関係者と商業者との連携により新たな魅力づくりを推進します。</p>	地域振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマ型まちづくり活動支援補助金制度：地区内での外国人研修生との交流を目的に1地区が制度を活用し、外国人との交流が図られた。 ● 異業種交流・研修・研究活動支援事業：新型コロナウイルス感染症により、ツーリズム事業の多くが実施できない状況であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマ型まちづくり活動支援補助金制度：1件実績ができたため、今後の制度周知の際には事例として紹介するなどして、制度自体の認知と理解を図る。 ● 異業種交流・研修・研究活動支援事業：新型コロナウイルス感染症対策を講じながらどのような事業ができるのか検討していく必要がある。
3. 体験と学習をテーマとした観光・交流の促進とツーリズムの推進	<p>①ツーリズム推進のための企画・運営体制と拠点施設の充実</p> <p>町内の多様な魅力を活用したツーリズム事業推進のための目標づくりと体制の強化、拠点機能の充実を進めます。</p>	地域振興課 (農業振興課)	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症のため、事業実施が困難であった。 ● ひかわツーリズムクラブについては法人化し、組織改編が完了した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しくなったツーリズムクラブと連携を取りながら企画を考え、人口増加へとつなげていく。 ● また、新型コロナウイルス感染症の対策を講じながら実施可能な事業を検討していく。
	<p>②ツーリズム展開にむけた魅力的なプログラム開発及び環境整備の推進</p> <p>町内の多様な魅力を活かすツーリズムの担い手と資源環境の充実を進めます。</p>	地域振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症のため、規模を縮小しつつ、感染対策を取りながら事業を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症対策を取りながら、実施可能な事業を検討する。
		生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内の研究会員を講師に氷川町の古墳めぐりを行い古墳の魅力について学習会を行った。また、地域協働活動事業として町内の子ども達にも古墳巡り等を行い氷川町の古墳について学習した。 ● 通年の草刈り等を実施し環境整備に努めている。また以前より、案内板や解説サイン等も整備され子ども達の教育の一助にもなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史や古墳等についての専門的知識をもった人材の育成等が必要である。 ● 草刈りに伴う経費について町予算を投じているので今後は、ヤギ等を放牧し予算削減に努める必要がある。
	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 覆砂事業や水産基盤整備事業の継続的な取り組みにより、水産資源の増大や海域の環境改善がみられる。今後、新たな事業展開について、漁協と協議していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 覆砂事業や水産基盤整備事業の実施により、アサリ等の水産資源の生息、増大は確認されているものの、大雨等の自然災害等の影響を受けやすく、水産資源の維持、確保が課題である。今後、ブルーツーリズムなど新たな事業展開に向け、漁協と協議していく必要がある。 	
<p>③ツーリズム・交流を促進する独自イベントの開催</p> <p>年間を通じたツーリズムプログラムをイベントと連携して推進します。</p>	地域振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 立神峡里山フェスタなどのイベント開催：立神峡公園は指定管理者により適正に管理されており、独自によるイベントを開催した。 ● その他のイベントについては新型コロナウイルス感染症のため中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 立神峡里山フェスタなどのイベント開催：新規イベントプログラムの開発。 ● その他イベントについては、コロナ禍で感染対策を講じながら実施できる方法を検討する。 	
4. 地場産業と連携して暮らしを豊かにする新たな産業の	<p>①農産物活用によるブランド化や6次産業化を目指した体制づくり</p> <p>地場産業の連携による産業</p>	農業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ● 出荷協議会会員の高齢化に伴い直売所の品薄対策は、大きな課題となっている。JAと連携や近隣物産館との連携など、課題解決に向け取り組みが実践されている。また、加工センターにおいても、売上げ増加に向け、ECサイトの活用など積極的な取り組みも行われている。 ● アグリビジネスセンターの事業を活用した、HACCPの導入により晩白柚もな 	<ul style="list-style-type: none"> ● 出荷協議会会員の高齢化に伴い直売所の品薄対策は、大きな課題となっている。JAと連携や近隣物産館との連携を強化し、課題解決に向け取り組みを実施する必要がある。また、加工センターにおいても、売上げ増加に向け、ECサイトの積極的な活用など安定した取引先の確保、販路拡大が必要。 ● アグリビジネスセンターの事業を活用した、HACCPの導入により晩白柚もな

方向性	施策の体系	担当課	成果	課題
創造	活動の主体としての組織づくりを進めます。		<p>かや晩白柚ジュレなどの新商品の製造が可能になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規作物の導入については、実証展示圃の設置への支援などを行った。今後は、集落営農法人へ積極的に推進していく。また、導入作物について、アグリビジネス研究所など関係機関と連携していく必要がある。 	<p>かや晩白柚ジュレなどの新商品の製造が可能になったが、安定した取引先の確保が課題となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新規作物の導入については、実証展示圃の設置への支援など行っているが、今後は、集落営農法人へ積極的に推進していく必要がある。また、導入作物について、アグリビジネス研究所など関係機関と連携していく必要がある。